

2022年1月12日(水)第二水曜祈祷会

テモテの手紙第一6章1～21節

「満ち足りる心を伴う敬虔」

■テモテの手紙第一の梗概(1章～5章) *テモテはパウロの第二回伝道旅行に同行した人物。

- ①手紙を受け取った時は、エペソの教会で監督の働きをしていた。当時の年齢は30代半ば。
- ②様々な問題で牧会に行き詰っていたテモテを励ますために、パウロはこの手紙を書いた。
- ③挨拶と励まし(1章)、信仰生活の勧め(2章)、監督と執事(3章)、諸問題への対処(4～6章)。

■満ち足りる心を伴う敬虔(6章1～10節)

1. 奴隷に対して(6:1, 2) *奴隷たちの中にも福音を信じる者たちがいた

- ①奴隷は、主人が未信者の場合にもあらゆる面で尊敬すべきである。神の御名のためである。
- ②奴隷は、主人が信仰者の場合にもその関係を軽んじることなく、より一層仕えるべきである。
- ③忠実な奴隷の奉仕は、その益を主人にも奴隷にも神の祝福として及び、敬虔の鍛錬ともなる。

2. 誤った教えを語る人に対して(6:3～6) *敬虔を利得の手段として考える者たち

- ①誤った教えを語る人たちの特徴は、キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えに同意しない。
- ②誤った教えを語る人たちは、高慢で、何一つ理解せず、議論や論争の病気にかかっている。
- ③彼らの言動は教会の中に、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争いを生じさせる。

3. 満ち足りる心を伴う敬虔について(6:7～10) *金銭を愛することが、あらゆる悪の根である

- ①物品や金銭が多くあっても自慢せず、また、たとえそれらが少なくても悲観してはいけない。
- ②なぜなら私たちは、何も持たずにこの世に生まれ、何かを持って御国に帰ることはできない。
- ③金銭そのものが悪なのではない。金銭を愛すること、金銭欲に支配されることが問題である。
- ④金銭欲のために信仰から離れ、結局は自分自身のみならず他人をも苦痛と破滅に陥らせる。

4. 神の人に対して(6:11～16) *人生は選択の連続。良きものを選択しなさい。

- ①神の人が求めるべきは、「義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和」である。心して選び取りなさい。
- ②神の人は、信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得するために召されたのである。
- ③主が再び来られる日まで、絶えず頌栄を口ずさみながら、恵み深い主の愛の中を歩みたい。

◎まとめ:

- ①「満ち足りた心を伴う敬虔」とは、具体的にどのようなものですか。
- ②あなたにとって信仰の戦いを立派に戦うとは、どういうことですか。

「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。あとは…」

(テモテの手紙第二4:7, 8)